

1. 日程: 2018年3月17日(土) 午前発 ~ 3月26日(月) 早朝着 9泊10日

2. 参加者: 15名(幕張高校8名・渋谷高校7名) 引率: 小泉 香織(幕張)・佐藤 マナブ(渋谷)

	所属	氏名	性別	
1	幕張高校		女	幕張副団長
2	幕張高校		男	
3	幕張高校		女	
4	幕張高校		男	幕張団長
5	幕張高校		男	
6	幕張高校		女	
7	幕張高校		女	
8	幕張高校		男	
9	渋谷高校		女	渋谷副団長
10	渋谷高校		女	
11	渋谷高校		女	
12	渋谷高校		男	
13	渋谷高校		女	渋谷団長
14	渋谷高校		女	
15	渋谷高校		女	

3. 行程(実際):

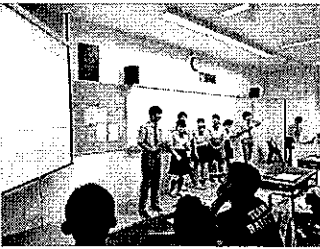
Date		活動内容	宿泊先
3/17	Sat	10:50 羽田空港発(JL 037) 17:30 チャンギ空港着⇒ ホストファミリーピックアップ	RI homestay
18	Sun	Free & Easy	RI homestay
19	Mon	7:25 Morning Assembly 7:50-13:50 Attend academic lessons 14:30-18:30 CCA (クラブ活動 & School tour)	RI homestay
20	Tue	7:25 Morning Assembly (代表挨拶 小林) 7:50-13:50 Attend academic lessons & cultural lesson 14:30-16:30 国立博物館	RI homestay
21	Wed	Meet at Raffles Institution→Visit Dunman High School 7:30 Morning Assembly @ Dunman HS (代表挨拶 ■■■) 8:00-12:45 Class observation 14:30-17:00 Interactive session 17:30 Return to RI	RI homestay
22	Thu	7:25 Morning Assembly 7:50-12:00 Attend academic lessons 14:00-15:30 KURITA(栗田工業) 17:15-18:15 Farewell Tea	RI homestay
23	Fri	7:25 Morning Assembly 7:50-9:00 Attend academic lessons 10:00 Check-in @ WSS 12:00-14:30 Mujahidin モスク 金曜礼拝見学 15:30-18:30 竹中工務店 22:30 Return to WSS	早稲田渋谷 シンガポール校寮
24	Sat	9:15-11:30 リトル・インディアツアー(ガイド案内) 午後 (Colonial District Walk) バトルボックス or チャイナタウン 18:30-19:30 シンガポール・リバークルーズ	早稲田渋谷 シンガポール校寮
25	Sun	9:00-12:00 ウビン島 ネイチャーウォーク(ガイド案内) 13:00-14:00 チャンギ刑務所博物館 15:00-17:00 FAST (NPO) 訪問 18:30 Check-out @ WSS 19:30 Arrive at Changi Terminal 1 (Farewell) 21:50 Leave Changi(JL 036)	機中泊
26	Mon	05:50 羽田空港着	空港にて解散


4. 事前研修の内容

日程	事前指導の内容	会場	担当
12月中旬	・参加者顔合わせ ・研修内容の説明 ・シンガポールの概論	各学校にて	小泉(幕張) 佐藤・室崎(渋谷)
12/21(木)	・東南アジアの自然 ※現地理解学習の内容の検討	渋谷高校	細野(渋谷)
1/13(土)	・シンガポールの歴史 ・シンガポールの政治・経済 ※現地理解学習の内容の検討	幕張高校	井上(幕張)
2/17(土)	・多民族国家シンガポール(言語・宗教) ・シンガポールの教育事情 ※現地理解学習の内容の検討	渋谷高校	夏目(渋谷)
2/24(土)	・参加生徒・保護者対象説明会(幕張)	幕張高校	
3/14(水)13:30~	・結団式(団長 挨拶)(幕張)	幕張高校	
3月中旬	・プレゼンテーションのリハーサル	各学校にて	

5. 研修報告：(主な巡検場所やイベントについて簡単に紹介)

<p>(1) Cordial Welcome</p> <p>RIのホストファミリーのご両親、生徒さん、そして担当の Lim 先生、Seow 先生が温かく出迎えてくださった。彼らの最高の笑顔の出迎えで私たちの緊張が一気に和らいだのを覚えている。生徒は早速積極的にコミュニケーションを取りながら、各家庭へと向かっていった。</p>	<p>(2) Presentation at RI ①</p>  <p>RI 生に対して渋谷生がプレゼンを行った。テーマは「日本社会での英語の役割、特に2020年の東京オリンピックでそれがどう変わるか？」であった。当初は20日に予定されていたが、急遽19日(RI初日)の1時限目の前に変更。生徒には動揺もあったが、堂々と発表していたと思う。ただ、大幅に延長してしまい(20分ほど)、迷惑をかけてしまった。RI側は発表の時間を10分程度と想定していたようだった。</p>	<p>(3) School Tour</p> <p>授業後の CCA (core curriculum activity) (クラブ活動) の時間に、RI のバディたちが学校全体を案内してくれた。わざわざ CCA を休んで時間をつくってくれたバディもいた。CCA にはサッカー、ソフトボール、クリケット、…柔道、空手もある。教員はこの CCA の顧問も務める。</p>	<p>(4) Morning Assembly</p> <p>事前に事務員の方から「国旗掲揚のときには腕を横に直立不動の姿勢をとること」という指示があり、緊張の面持ちで壇上に向かう。朝礼にて全校生徒に紹介される。渋谷団長の君の挨拶に皆が耳を傾けてくれ、生徒たち(教員も)は温かい拍手に包まれた。国旗掲揚、宣誓などシンガポール人の愛国心とは何かを考える良い機会となった。</p>
<p>(5) Cultural Lesson at RI</p> <p>交流担当の Vanessa Ho さんからシンガポールの食・文化・言語などについて講義を受けた(60分ほど)。たいへんエネルギーでユーモアもありかつ分かりやすい説明で、生徒はどんどん引き込まれていった。特にシングリッシュの単語の解説講義は盛り上がっていた。</p>	<p>(6) National Museum</p> <p>国立博物館を見学。日本語ガイドを利用した。研修の早い段階でこの場所を訪れることには意味があると感じる内容であった。当初は渋谷・渋谷生のみで行く予定であったが、かなり多くのバディが一緒に行ってくれた(ちなみに現地校の生徒は入場料が必要ない)。</p>	<p>(7) Interaction with Dunman</p>  <p>公立のトップ校である Dunman との学校交流は、たった1日であるが、生徒にとっては印象深いものとなった。男女共学であること(女子が元気で全体的にアットホーム)、そして日本文化クラブの存在は大きい。(大学レベルの)授業参加でも刺激を受けた者が多かった。</p>	<p>(8) KURITA</p> <p>1月に動き始めたばかりの会社。施設はまだこれからという感じであったので、物足りないと思う生徒が多かった。Water is Life の発表者になっている生徒にとっては得るものがあったようである。企業の海外進出について知る良い機会だったととらえている生徒もいた。</p>

<p>(9) Farewell Tea</p> <p>軽食をとりながら歓談をする時間。事後アンケートで、「特別なことをするわけでもなく、仲良くなった人たちと話していただけるゆったりとした時間だった」と評する生徒がいたが、RI生、渋渋・渋幕生、いずれも本当にいい表情をしていた。</p>	<p>(10) Presentation at RI ②</p>  <p>RI 生に対して渋幕生がプレゼンを行った。テーマは「日本の伝統と近代化の共存」について。生徒たちはメモを見ずに発表をしようと努めていた。日本のアニメや漫画、和食、伝統工芸品など、日本の文化にRI生たちは興味を持って聞いてくれている様子だったが、1限の前だった為にQ&Aの時間がなく、発表だけで終わってしまったのが残念だった。</p>	<p>(11) Mujahidin Mosque</p> <p>ムジャヒディンモスクで、金曜礼拝を見学した。また、日本人ボランティアの方が、イスラム教について、丁寧に質問に答えてくださった。一部の過激な宗派やメディアの報道に惑わされないでほしいとの声に生徒は一様に納得していた。</p>	<p>(12) Takenaka Corporation</p> <p>シンガポールチャンギ空港支店訪問は巡検先でも生徒たちの評価が高かった場所。空港内の建築中のターミナル内施設を見学させてもらった。事前に生徒から出た質問にも答えを用意していただき、見学も含めて時間は3時間に及んだ。</p>
--	---	---	--

<p>(13) Little India Tour</p> <p>シンガポールにおける多文化を語る上で外せない場所の一つ、Little Indiaをガイドの方の案内で回った。市場を散策した(サリーの試着などもあり、飽きさせない構成)後、ヒンズー教の寺院で礼拝の様子を見学し、神様の説明を受けた。現地での生活感にエネルギーを感じた。</p>	<p>(14) Ubin Island</p> <p>ウビン島の散策。ガイドのSubarajさんが足を痛めたため、急遽その息子さん(大学生)がガイドをしてくれることになった。残念ながら、Subarajさんと同等レベルではなかったが、様々な鳥、サル、リス、トカゲ、ヘビなどとの突然の遭遇に生徒たちは歓声を上げていた。</p>	<p>(15) Changi Prison Museum</p> <p>日本軍がシンガポールを占領していた時代に欧米捕虜や現地の人々がどのような扱いを受け、どのような生活を強いられていたのか、歴史を学ぶ重要性を痛感した。事後アンケートでは、「バトルボックスと併せて見学するとより効果的だ」という意見も見られた。</p>	<p>(16) NPO FAST</p>  <p>昨年に続き2度目の訪問。メイドさんへの支援など、活動の説明を聞き、実際にズンバなどアクティビティーに参加させてもらった。最後にメイドさんへのインタビューの時間を捻出していたく等、我々のことを気遣っていただいた。生徒達はメイドさんとの交流を楽しんでいた。</p>
---	---	---	--

6. 生徒アンケート結果

- [時期]、[人数]、[費用]：いずれも「適切である」という評価が大半。「安い」という意見もあった。
- [行程]：研修の内容に対する満足度は高いが、ホストファミリーと過ごす時間をより長く望む生徒が多かった。話し合いながら自分たちで行程を決めていくスタイルを評価する者が多かった。
- [選考]：「適切である」という回答がほとんどであった。志が高い者を選ぶ意義を実感した者が多かったようである。
- [事前学習]：回数と内容ともに適切。特に、ホストファミリーとの会話で学習内容が役立ったという意見が多かった。
- [研修前の説明会]：特に問題なし。
- [現地で使ったお金]：約 15000 円(食費は約 5000 円、土産代はまちまち、交通費は約 2000 円、博物館などの入館料)
- [ホームステイ]：(以下、生徒からの意見)
 - ・こちらがうまく英語で物事を理解できなかつたりしたことは多くあったが、バディや家族がサポートしてくれた。
- [RI での授業]：(以下、生徒からの意見)
 - ・どの授業もみんな積極的に発言していた。質問も良くしていた。体育は兵役のためもあつてか結構ハードだった。
 - ・授業内で、別の日に提出のレポートについて説明していたのだが、その内容に感動した。RI のレポートは、与えられた問いに答えるために、どのような実験をすれば良いのか自分たちで考える。将来必要とされるのは、RI タイプの「課題を解決するために必要な手順を考える力」だと思うので、私はRI の授業に感動した。
 - ・全体として、RI の授業は日本の授業に比べて緊張感があると思う。寝ている人は一人もいないし、板書はあとで写真を撮るとかではなく、一字も逃さないように全員がメモをとっていた。授業の質も、生徒の質も、日本に比べて高かった。
- [Dunman]：(以下、生徒からの意見)
 - ・公立の学校だと聞いたが、公立でも入学前のテストでレベル別になっているので、全体的にみんなやる気があると感じた。たった一日だけだったが、すごく仲良くなれたし、もっと関わる時間があつたらよかつたと思った。
 - ・日本に興味をもって勉強してくれているんだなと嬉しかつたです。アットホームな雰囲気、RI とは全然違つた。

○ 巡検先の評価

	国立博物館 (日本語ガイドツアー)	KURITA (兼田工業)	モスク	竹中工務店	Little India	バトルボックス (参加者8名)	Orchard → Chinatown (参加者7名)	リパークルーズ	ウビン島	チャンギ博物館	NPO FAST
大変良い	5	2	15	10	8	8	3	10	9	6	11
良い	8	8	0	4	6	0	3	5	5	5	3
良くない	2	4	0	1	1	0	1	0	1	4	0
廃止すべき	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

7. 生徒「感想文」から

シンガポールという国が、今まで行った多くの国の中で間違いなく一番印象的な国になったことは間違いない。一番印象に残っている言葉がある。KURITA を訪問したときの日本人の職員の方の言葉。シンガポールに日本の企業が進出するうえで一番難しいことは？という僕の曖昧な質問に対し、絞り出すように答えて下さった回答である。「この国は世界の最先端が集まってしのぎを削っています。その中で世界の色々な強い企業と戦って、勝っていかなければならない。それが難しいことですかね。」この小さな小さな国に世界の最新が詰まっているというのだ。その回答を聞いて僕は、ああこの国、次元が違うな…と本気で興奮した。建国からのとても短い歴史の中に、たくさんの濃い出来事が詰まっている。そして、多民族の共存、ただの共存ではなく、調和である。一回の晩御飯で、中華系のチキンライス、インド系のロティ・プラタ、マレー系のサティを食べた日もあった。そして、学校では民族なんて関係なくみんなが仲良く話している。向こうでは当たり前のことだが、僕にとっては新鮮だった。そして、世界最先端のビルが並んでいる地域もあれば、都市の中に素晴らしい緑もみることが出来る。目に映る一つ一つのものが新鮮で、全てが刺激だった。小さい国だが、見ても見ても魅力は尽きない国なんだと痛感した。この感動を忘れてはいけない。既にもう一度行きたい気持ちでいっぱいだ。

8. 引率者所見

- (1) 全体的に生徒たちの満足度の非常に高い研修となった。これは、事前準備から彼らが自分たちの力で作り上げてきたことが大きく関係しているだろう。自分たちでやる分、生徒たちへの負担は確かに大きいですが、この研修に集まるメンバーはその大変さを楽しみながら一つひとつやり遂げていく姿が印象的だった。
- (2) モチベーションの高い分、生徒達は自分たちの発表に関して“自分たちが納得する完成度”を求めている。その点で、学年末考査から出発までの期間が短く、出発準備をしながらプレゼンテーションを仕上げるには時間が足りなかった。空港や飛行機の中でも必死にプレゼンの準備をしていたが、それでも準備時間が足りずに悔しい思いをしていた。「時間さえあればもっと良いプレゼンができたのに。せっかくRIでプレゼンをするチャンスをもったのに、思うようなプレゼンができずに悔しかった」という生徒の声が複数挙がっていた。学年末考査から出発までの期間が短いことを考えた上で早めにRIからプレゼンのトピックをもらい(その際に何日目どの時間にプレゼンするのも聞いておく必要がある)、生徒たちには余裕を持って準備させてあげたい。
- (3) “手作り”の研修である為、1つひとつの訪問先を決めるまでに時間がかかる。訪問先から返信が来ない為に電話をしなければならなかったり、企業訪問先が決まらずに次々と複数の企業にコンタクトを取ったりと、とにかく行程が全て埋まるまでに苦労が多かった。また、今回はRIがホームステイを実施するのかどうか直前まで決まらず、「ホームステイ有り」(さらに「週末だけのホームステイ」と「週末+月～水のフルホームステイ」のどちらになるかも分からなかった)と「ホームステイなし」の2種類の計画表を埋めていく作業を進めていく必要があった。本格的な訪問先の検討は3学期になってから始まるが、余裕を持って準備できたら良いと思う。
- (4) 今年はRIでの担当部署がEnglish Departmentに変わったが、担当者の先生やAlliance(国際交流担当)の先生方が丁寧に対応してくださり、生徒たちが困らないよう良く面倒を見てくださった。できれば今後は他部署に回すことなく、English Departmentが渋谷教育学園との交流を継続して担当していきたいとのことだったので、9月の受け入れの際には丁寧に対応し、この繋がりを大切にしていきたい。